

# 「赤ちゃんと遊び」プログラムの開発

岩丸 明江

## 1. 事業の目的

国連・子どもの権利委員会で「乳幼児の権利主体性」が強調されている。乳幼児は、生まれついた瞬間から権利の主体として、その権利行使を奨励・支援していくことが求められている。しかし、子育て支援の環境としては、室内型の広場づくりはすすんでいるものの、外遊び環境を含め、赤ちゃんが豊かで自然な生活体験を保障されるには不十分であり、五感を使って遊ぶ環境がより貧しくなっている。過剰な育児情報、大人の都合を優先させるかのような「便利な」育児グッズの氾濫、赤ちゃんへの知育偏重の様々な「習いごと」情報などが背景としてある中で、私たち大人が乳幼児の遊びや発達を支える支援力は充分なのだろうか？

赤ちゃんは驚くほど、環境に働きかけており、主体的に活動していることは、2000年代以降の脳科学研究が指摘している。そこで、私たち大人自身が、赤ちゃんを「庇護する存在、未完成な存在」としてではなく、その可能性に気づく機会として、子どもの基本的・主体的欲求である「遊び」に注目し、「赤ちゃんと遊び」のプログラム開発・実施・検証を試みた。そして、「遊びは赤ちゃんの生活そのものであり権利である」、との視点で「赤ちゃんの人権」に注目し、赤ちゃんによりそうことを通じて、互いに尊重しあう人権意識を早期から育むことを目指したい。(この事業は、平成24年度「人権の約束事運動推進活動支援事業」の助成を受けた。)

## 2. 事業実施期間

平成24年8月～25年2月

## 3. 参加人数

43名

(「赤ちゃんと遊び」ワークショップの実施とふりかえり研究会)

## 4. 事業内容

### 4-1 「赤ちゃんと遊び」開催概要

(1回90分の内容を5回実施 10月～2月。

8・9月にもプログラムを試行)

\*定員6名(×5回)

\*対象：赤ちゃんと親(または、親に代わる養育者)

子育て支援に関心のある方

\*参加費：500円(ワンドリンク付き)

\*会場：カフェ&スペース あわい

4-2 プログラム進行表 (例: 8月開催分)

ワークショップの記録	タイトル	あわい企画 人権の約束事推進活動支援事業		
	テーマ	赤ちゃんと遊び ワークショップ		
日付	2012年8月25日(金)	時間	10:30 ~ 12:00	
場所	カフェ&スペース あわい	合計時間	90分	
人数( )名	女( )	男(0)	属性	
年齢層など 気づいたこと	市民			
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びとはなにか 考えてみる</li> <li>・赤ちゃんのთვისの遊びの本質とは?</li> <li>・遊びを阻害するものに気づき、大人ができる関わりを考える。</li> </ul>			
内容(時間配分・手法)(①アイスブレイキング②アクティビティ③ふりかえり)			備考・出版助成(社シス)田村慶子準備物など	
アイスブレイク 10:30 ( )分	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ファシリテーター自己紹介&amp;団体紹介</li> <li>*今日のテーマとねらい について</li> <li>*アイスブレイキング 名札づくり ・氏名 ・ハンドルネーム ・好きな本や音楽や食べ物を3つ</li> </ul> <b>【遊びってなんだろう?】</b> (白紙に書いてみる) (→言葉がでにくいので省いてもOK)			配布資料 タイマー マグネット 水性マジック ホワイトボード
10:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 遊びについて 願っていること</li> <li>1. <b>【あなたの好きだった遊びは?】</b> 絵であらわして シェアする <b>【そのときの気持ち、感じを言葉であらわすと?】</b> →FG(ファシリテーション・グラフィック)でかきだす ミエル化して共有する。</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 子どもの発達 遊びこむとは?? ・発達の資料をみんなでみる 赤ちゃんは日々成長し、世界を拓けている</li> </ul>			月齢ごとの特徴を簡単に押さえる。
11:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. DVD(13分) 遊びの様子をみる <b>【赤ちゃんの様子 環境 大人の関わり についてみてみよう】</b> →ふりかえり</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 赤ちゃんの遊びを脅かすものって?? <b>【赤ちゃんの遊びを脅かすものってなんだと思いますか?】</b> (予想される内容・・・) ・あふれるおもちゃ、完成されすぎたおもちゃ ・メディア ・待てない大人 ・細切れの時間</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>5. 赤ちゃんの頃の「できた!」を教えてください。</li> </ul>			時間がある場合はやってみる。

12:00	<p>6. 結局 遊びとは??          みんなでふりかえりを書いてシェア          [乳児期・・・生きていること 生活そのものが 遊び          遊びとは自発的な関わり 行為ではなく 意欲、プログラムのな          のではなく自由自在なもの          でも、今国連の子どもの権利委員会で 赤ちゃんの権利が守られて          いない 状況があることが指摘されている]</p>	地域の遊び場について情報提供
-------	---	----------------

4-3 「好きだった遊びをふりかえって・・・そのときの感じや気持ち」  
 自分が子どもだったころ、好きだった遊びを描いていただいた。  
 そのあと、そのときの「気持ち」や、「感覚」をふりかえって、FG（ファシリテ  
 ーション・グラフィック）で模造紙にまとめた。（以下は、数回分をまとめたもの）

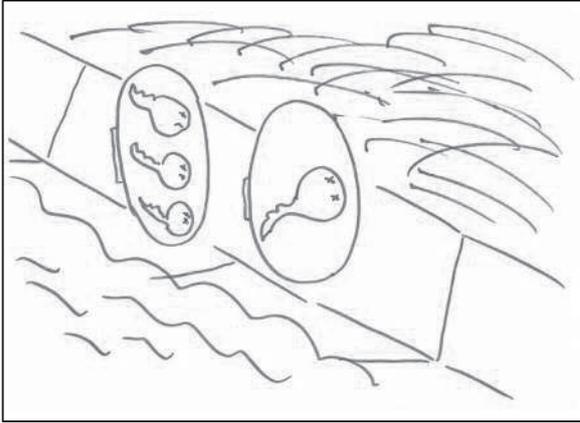
- ◆ハッポー ヒヤヒヤ ワハハ サワサワ 解放感 怒られた ゴロゴ  
 ロ ワクワク ドキドキ ミーン サー
- ◆もっと遊びたい 楽しかった 危ないことしてた 楽しい 集中 妹と  
 近所の子 夢中 ハラハラ ヒヤヒヤ みてみて ぜったい勝つ もう1  
 回もう 1 回 外でからだをつかって ワクワク 自分が得意なことをし  
 ていた もっとしたい 何それ!
- ◆無心 たのしい 気持ちいい 夢中 ドキドキ 光 ワクワク 1人じゃ  
 ない 草におい 次なにつくろうかな  
 いたずら ワクワク みえないようにしなくちゃ  
 え～ やだ～ 帰りたくない やべっ いつまでもしてきたい 完成!  
 うれしい (かまってもらって)

五感を刺激されている様子、ワクワク、ヒヤヒヤする心の動き、無心であること、  
 チャレンジする機会、達成感、次への意欲、他の人にみてほしい、わかちあいた  
 い、コミュニケーションなど、遊びの要素がよく出ている。

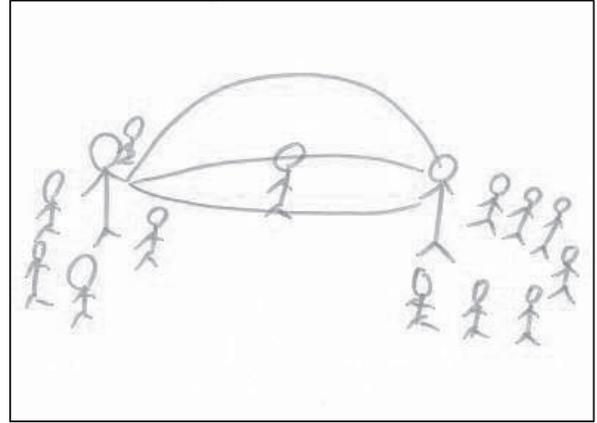
#### 4-4 遊びを阻害するもの

- ・大人の先回り ・禁止 ・介入しすぎ
- ・TV、ビデオ?などメディア
- ・危険な遊具がない⇒危ないからはずす  
 (子どもの身体能力が落ちる)
- ・小さいケガをさせて 大きいケガ予防  
 するものだが・・・
- ・子どもが好きな遊び⇒お金が必要なこ  
 とが多い
- ・2人目・3人目がいる ⇒上の子にふ  
 りまわされる





好きだった遊び：おたまじゃくしに砂をまぶしてテンプラごっこをしていた。



好きだった遊び：なわとび。ヘタだけどみんなでいっしょにしたのしかった。

(遊びを阻害するもの つづき)

- ・親の緊張・・・我が子の面倒は我が子でみなくては！→小さくまとまっていく
- ・1人の親では限界がある（上の世代ががんばらないといけない・・・支援者の意見）
- ・親が自分のいいようにしている？
- ・住宅事情・・・思い切って遊ばせられない
- ・情報が多すぎて 知育にはしる？
- ・子ども雑誌の影響 コレ買ったほうがいいのかな？と思う
- ・おもちゃ・・・その通りには遊ばない
- ・子どもにいつも機嫌よくいてほしい
- ・おかあさんたち 不安 →もつともつと過干渉になる
- ・少子化で、購買層のターゲットがさがっている（赤ちゃんが市場にまきこまれている）

4-5参加者 ワークショップ ふりかえり（10月～2月）

- ・子どもの遊びは心の発達を育てるもの そこから成長していく
- ・大人の関わりも大切になってくる
- ・印象的なこと・・・完成されすぎたおもちゃは限界がある おもちゃじゃなくてもOK 子どもに関わる幅広い人が知っていくべきこと
- ・専門職としてはとても勉強になりましたが、もうすこし低年齢の子どもの発達とからめて勉強していかないといけないなあと自省。 親としても子どもの遊び、人権に敏感でありたかった、と自省・・・ こういうことはもっと広めていきべき。今の育児グッズ、おもちゃが成長を促さないものが多くなっていることに深く憂慮・・・してもどうしようもないので、選ぶ側の目を育てていくことが大事ですね。



- ・目の前に子どもたちといっしょに遊びながらのワークショップだったので新鮮でした。少人数なのでしみこむように入り込みました。特にひとつのことに集中して取り組む（参加者の）ママの様子は印象的でした。ひろばのスタッフ、ママたちに見てもらいたいなあ シンプルな環境でじっくり遊びこむ大切さ
- ・整った環境にズキッときました。1つのものでじっくり遊ぶときもあるし、あれこれ出してしまうときもあるし・・・ 子どもが遊んでいるときも散らかりすぎないように様子を気にかけておこう（遊びやすい環境に・・・）
- ・赤ちゃんのできた！の思い出話・・・あとで考えると沢山あった。「できたよ！楽しいよ！みてみて！」の姿（表情）に答える。見過ごさないようにしよう。
- ・親子できょうだいでいっぱい笑って過ごす時間を大事にしたいから・・・たまごっちは買わないことにしました。今日の講座に参加してよかった。プリキュア、ポケモン・・・友達もっているから欲しい・・・という思いをどこまで受け入れたらいいのか・・・。
- ・大人が準備する遊びより 子どもが見つめて遊ぶほうが子どもは楽しんでいるのかな。子どもが見つけた本当にたのしい遊びを、ゆっくりじっくり見守っていきたい。
- ・赤ちゃんの遊びを思う存分させてあげられる 余裕（時間・心） 空間（広さ・収納！！）
- ・子どもの気持ちを思い出しました。くりかえすことの楽しさ、音や動くもののおもしろさなど。こどもがその感覚を楽しめるように、大人は心を豊かに、時間に余裕を持とうと思いました。
- ・みんなと話して「こう思っていたな」と思い出す機会でした。ふだん生活していると忘れてるんだな。まわりの人がやっているから・・・ではなく、子どもとこういう感情を共有できたら。
- ・あそびって わくわくドキドキ・・・心が元気になる。生活の中にあそびが沢山みつかるといいかな。みつける感覚を育てていきたい。自分もみつける目をのば

したい。

・りっぱなおもちゃにたよらず身近な生活用品でも子どものあそびは楽しめるし、充分子ども自身が発見でき、そのあそびが成長の手助けとなる。“あそび”は大人の環境づくりが大切。あそびについて、より深く学べた。何気なく、子どもを見ずにあそびを見まもり・・・

・広いスペースであきるまで自由に遊ばせてあげたい。たくさんのおもちゃは必要ないなあ。

・子どもって一人で楽しくできるんだなと思った。広い心で見守りたい。できるかどうか。

・自分の小さいころを思い出し、子どもにもたくさん遊ばせたい。ティッシュだし、トイレットペーパーくるくるをさせてあげたい。

・普段そこまで考えることはなかったけど、自分の小さいころを思い出し、(子どもが遊んでいる)DVDをみて子どもにとっての遊びについて新しい発見ができた。市販のおもちゃだけじゃないと思った。ゆとり！遊びについてみんなといっしょに勉強でき、貴重な体験でした。

・まず講座のときに“呼び名”があるのがおもしろかった。呼び名を呼ぶ声で一気にみんなと親近感がもてた。子どもについつい何かを買ってあげたいと、いろいろなおもちゃを買ってしまうのですが、DVDをみて生活の中にあるものがとても楽しいものになるんだなあ、と思いました。気長に見守っていただけいいなあ。

・自分の遊びをふり返りつつ、赤ちゃんも抱っこさせてもらって、小さい頃の色々な気持ちが浮かんできて、ほっこりしたひとときでした。ひとつのテーブルを囲んでゆっくり人の話を聞く場はありそうでなかなかないように思います。貴重な体験になりました。

#### ●参加者のふりかえりからみえてくること

- ・子どもの頃の遊び体験をふりかえり、子どもの頃の気持ちを思い出し、遊びの楽しさを再確認している。
- ・大人の待つ姿勢の大切さ、関わりについて気づきがある。
- ・おもちゃのとらえなおし(赤ちゃんは生活の中で、おもちゃでなくても、いろんなもので遊んでいる)。
- ・遊びの環境づくりについて、(大人が与えるのではなく)赤ちゃんの遊ぶ様子をもとに考えようとする気づきがある。
- ・参加型の講座スタイルについての安心や楽しさに言及している。

## 5. プログラム内容の検討

発達心理学の専門家と共に、上記ワークショップの実施の期間中にアンケート結果や、担当ファシリテーターのふりかえりをもとにプログラムの検証を実施し、プログラムの改善を試みている(次年度につなげて引き続き検討中)。

	Keep＝続けていきたいこと	Try＝今後の修正・保留事項
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援センター・子育て広場等へのチラシ配布</li> <li>・メールでの発信</li> <li>・子育て訪問時 関心ある方へのお誘い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科などにチラシをおいていただく</li> <li>・子育て支援者に広報依頼</li> </ul>
プログラム内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1. 遊びの思いだしワーク」 楽しい気持ちと呼び起こし、子どもの視点になるので、大切。</li> <li>・「3. DVDをみる」 13分という長さもちょうどよいので、集中してみることができている。赤ちゃんの様子や大人の声かけに注目。</li> <li>・「4. 遊びを脅かすもの」 現代の赤ちゃんを取り巻く環境や、大人の固定観念に気づく大事なワーク。 出にくい場合は問いかけ方に工夫が必要。</li> <li>・参加者の様子をつかむために、最初のアイスブレイキングでしっかりと場を温める。</li> <li>・ワークショップに慣れていない参加者のためにワークショップのルールを押さえる。</li> <li>・時間はちょうどよい。子連れなので90分が適当。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2. 発達」資料をみる場合は、「赤ちゃんが世界を拡げていく、世界に働きかけている」という点を押さえ、資料を使う意図を明確に。</li> <li>・最後に地域につなぐ情報パッケージを用意すること（子ども観、遊び観を育んでくれるところ）</li> <li>・「4. 遊びを脅かすもの」のワークで自罰的な話ばかりがでてきたら、「前向きに工夫していること」についても問いかけてみる。</li> <li>・アンケートは、「支援者」か「子育て中の親」か属性を書いてもらったほうが分析しやすい。</li> </ul>

## 6. さいごに～プログラム開発を試みて

筆者は、室内・戸外を問わず、地域の乳幼児の遊び場づくりに10数年関わっている。「赤ちゃんとの遊び」については、以前からとても違和感を感じていた。大人が目の中の赤ちゃんが遊んでいる様子を観ているのだろうか・・・「赤ちゃんとはこういうもの」「この遊びはまだできないだろう」「おもちゃはたくさんあったほうがいい」など、自身で実際に遊びを観たことを通してではなく、本や様々な情報に基づく「赤ちゃんや遊びのとらえ方」であるように感じていた。

せつかくの脳科学の発達も、「だから赤ちゃんに知育を」というのでは、本当にもったいない、と思う。赤ちゃんに潜在力があるなら、むしろ、赤ちゃんは、どんな風に世界に働きかけたいのか、何を面白がっているのか、赤ちゃんの自発的な活動に注目しながら、赤ちゃん自身のニーズや意欲から学ぶのが先だと思う。

赤ちゃんが遊びを選んでいること、そのことがすでに「自己決定」の営みなのであり、自由な遊びを保障されることが赤ちゃんの人権を保障することにつながっているのである。大人はもっと赤ちゃんを尊重し、そのメッセージに応えるべきだと思う。

また、ここ数年、さらにすごい勢いでソーシャルメディアの端末が開発されている。赤ちゃん向けのアプリも多様にあり、人間の声であやすより先に、機械音を使ったアプリをまず使う・・ということも、よく見られる光景になっている。すごい勢いで脳が発達している乳幼児が、長時間メディア接触することに対し、小児科医会やNPOが警鐘を鳴らしている。メディアに頼るよりも、まず、赤ちゃんがしようとする遊びに敏感でありたい。

もちろん、赤ちゃんの自発的な動きだけでなく、大人が準備できる「遊びを活性化させる遊び環境づくり」の可能性も重要である。しかし、市場化している子ども向け商品の世界で、むしろ、応用がきかずに遊び方が決まってしまうおもちゃ、過刺激で赤ちゃんをむしろ受け身にしてしまうようなおもちゃもあることに注目し、その影響について、子育てしている方に早期に伝えていけたら、と思う。

「赤ちゃんと遊び」プログラムは、子育ての初期の方にゆったりとした雰囲気ですべて「遊び」に注目してもらおう講座である。もしかしたら、イライラしてしまうような赤ちゃんの動きも、「今、夢中で遊んでいるんだな」と多面的な見方をすることで、楽になる部分があるかもしれない。子育て支援者も「遊んであげなくては」「大人が関わらなくては！」と気負ってしまい、「待てない大人」になるのではなく、遊びに関わるものとして「観る力・広げる力」を育むことを重視していきたい。そのために、さらに、継続的に講座を開催し、参加者からのフィードバックを蓄積していきたい。